

新たな組織体制の中で

神奈川県農業技術センター所長 露木 洋一

当センターは、従来の農業部門の研究・普及・病虫害防除に加え、この4月から畜産技術センター、かながわ農業アカデミーを統合いたしました。

畜産部門の研究・普及、新規就農者養成の業務や組織の設置場所は、従来と変わりませんが、一つの組織として、食料自給率の向上、食品や家畜排泄物のリサイクルなどに向けて、従来以上に耕畜連携の強化を図るとともに、就農準備から、就農、農業経営発展まで、担い手の一貫した育成を図ってまいります。

また、政治や経済が変革し、農業や食物、環境への関心が高まる中で、本年度は、研究・普及の両部門とも、5年に一度の中期計画を策定する時期に当たっております。

業務の選択と集中が求められるとともに、成果は、農業者ばかりでなく、県民の皆様にも広く社会還元をしていく必要があると考えております。

これまでの普及部門や病虫害防除部門の統合の効果を検証しつつ、課題を整理して、幅広い御意見を伺いながら中期計画の作成を進めるとともに、成果のPRにも力を入れてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。



ブドウのハクビシン対策について

果樹花き研究部

近年、県内ではブドウ圃場でハクビシンによる食害が増加しており、多くの生産者が対応に苦慮しています。ハクビシンは平棚を登って棚上を器用に歩き、成熟したブドウの袋を破いて中の果実を食害し、皮を下に落とすのが特徴です。

その対策として、一部の生産者は、電気柵を設置して侵入を防いでいますが、初期コストが高いことや、圃場周囲の除草を徹底する必要があることから、あまり導入が進んでいないのが現状です。

そこで、当センターでもこれまで様々な対策を検討してきましたが、その中で、犬の毛をネットに包み、7月中旬にブドウ棚の支柱およびブドウの樹幹に設置することで、9月中旬まで食害を防ぐ効果がみられました。設置する高さはおおよそ0.8m~1.2mとし、すべての樹幹および支柱に設置することで効果が得られることが分かっています。

本試験は平成19年から平成21年まで3カ年の試験で効果を認めましたが、今後は年次変動および効果の持続性についても引き続き検討してまいります。



ハクビシンによる被害



犬の毛の設置の様子(左 ブドウの樹幹、右 平棚の支柱)